

令和6年11月13日 第5回妊娠・出産・産後における妊産婦等の支援策等に関する検討会

出産体験アンケートから 見えてきた課題と よりよい出産のための提言

静岡大学 白井千晶

お産を女性たちの手に取り戻す
ネットワーク

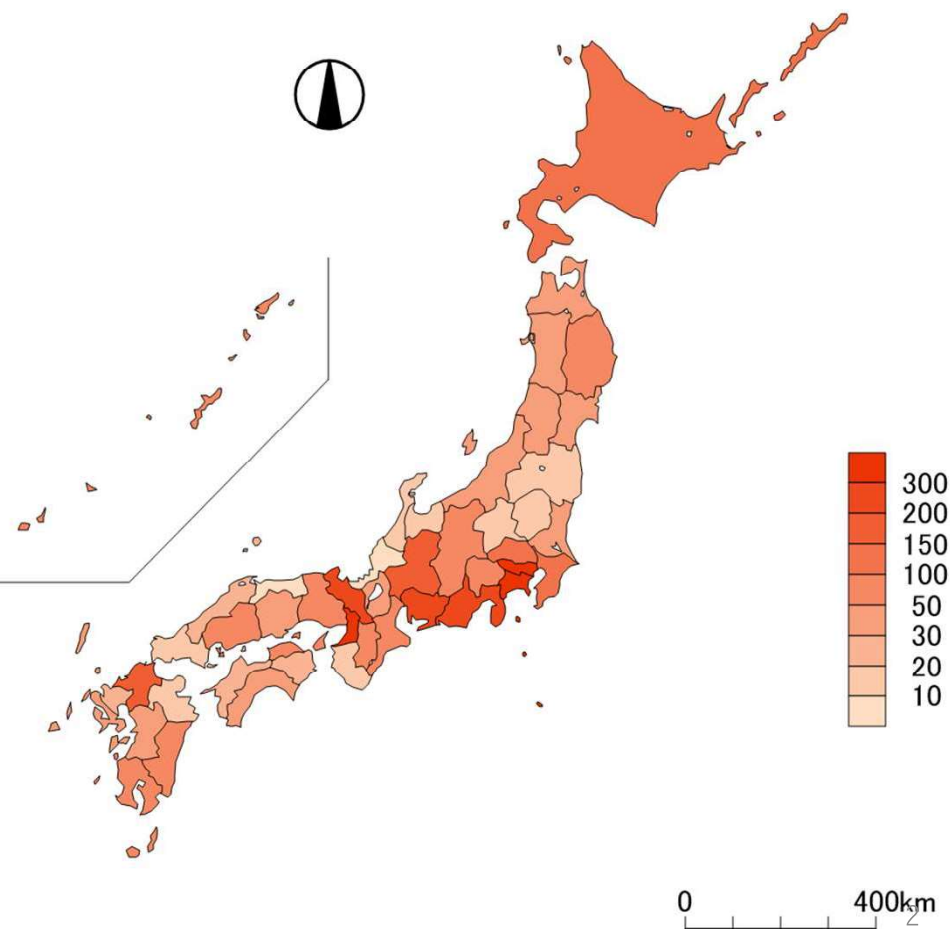
出産を体験した女性たちへのアンケート結果
3940件のうち、
2015～2024年の出産体験に関する回答2551件
をもとに



アンケートについて

主催：お産を女性の手に取り戻すネットワーク
アンケート収集期間：2024年8月13日～8月31日

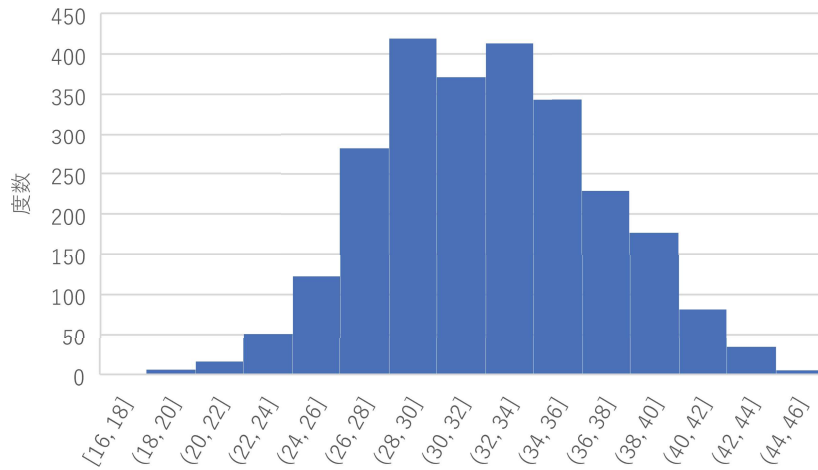
- ・「正常産の保険適用検討開始」を知った全国の出産育児当事者グループが連携し、子育て中の一般女性の声を届けるのを目的としたアンケートを企画した。
- ・全41問。出産した年、都道府県、分娩施設種別、出産年齢、分娩方式、産前教育、妊婦健診、立ち合い有無、医療介入有無、不快な経験有無、産後の気持ち、出産無償化についての賛否などを問うた。自由記述あり。
- ・1出産1回答、賛否についての回答は1人1回の回答とした。
- ・出産地域（3940件）の分布は地図のとおり。全都道府県から回答を得た。
- ・以降は2015年以降の出産に限定して報告する。
- ・ちなみに2024年10月30日時点の回答数は4144件。



出産時の年齢

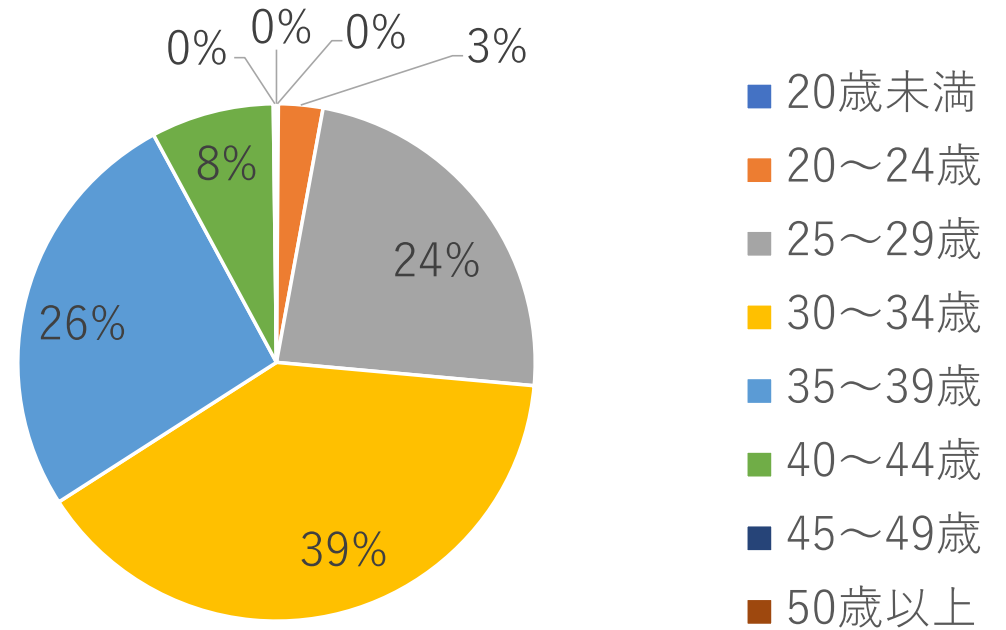
範囲：	16-46
平均：	32.66
標準偏差：	4.577

2) 出産時年齢

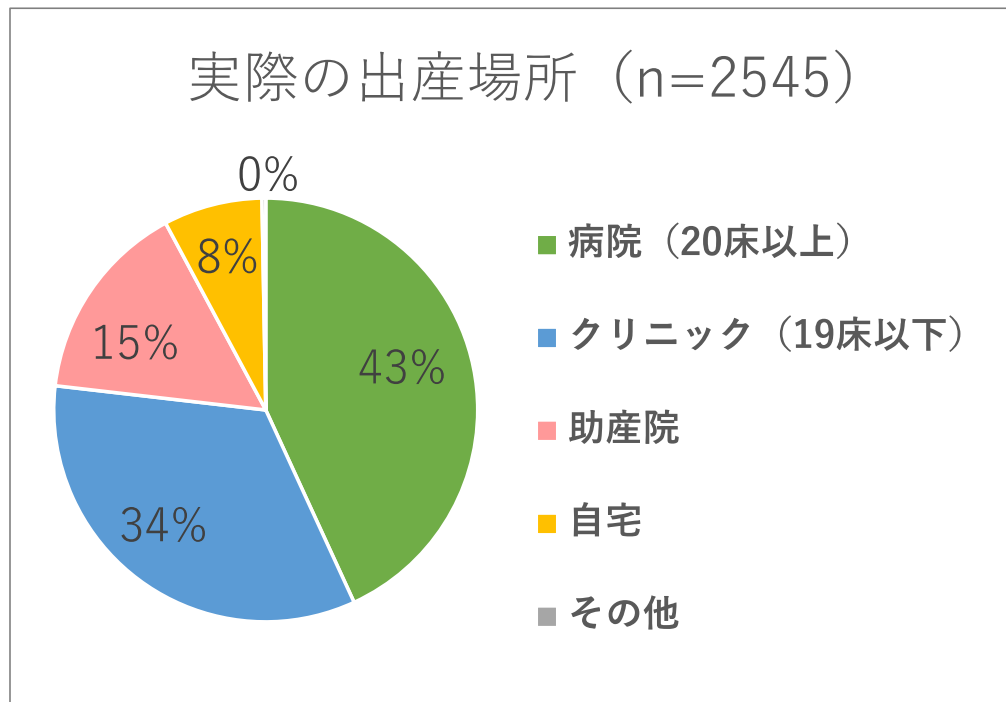


2) 出産時年齢

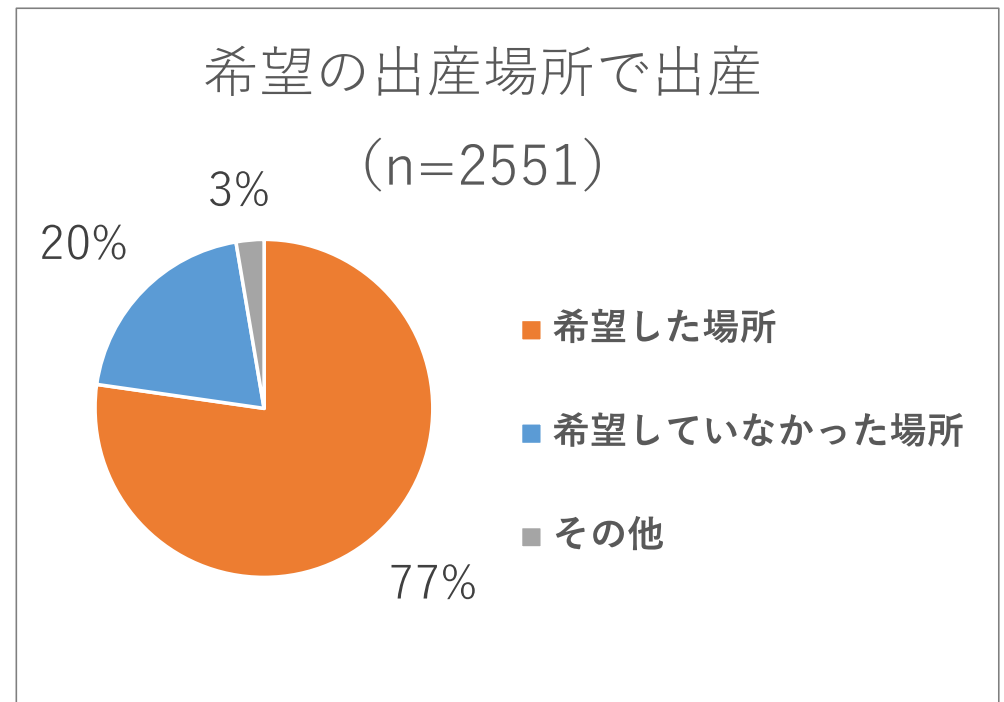
出産時の年齢 (n=2550)



出産場所



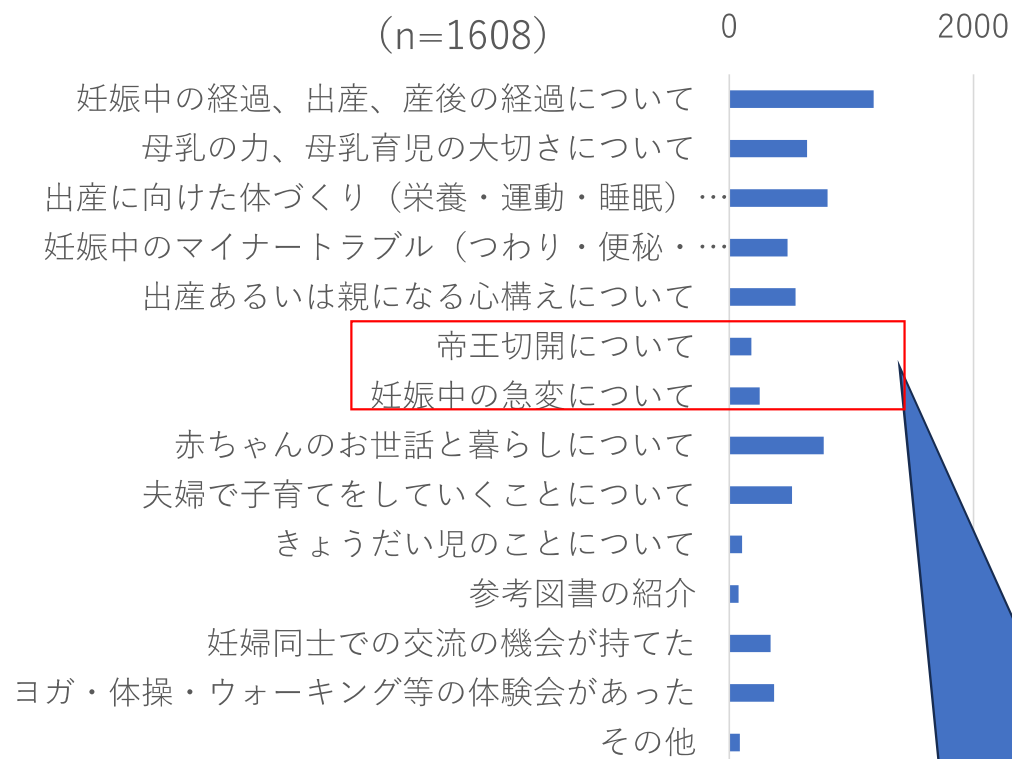
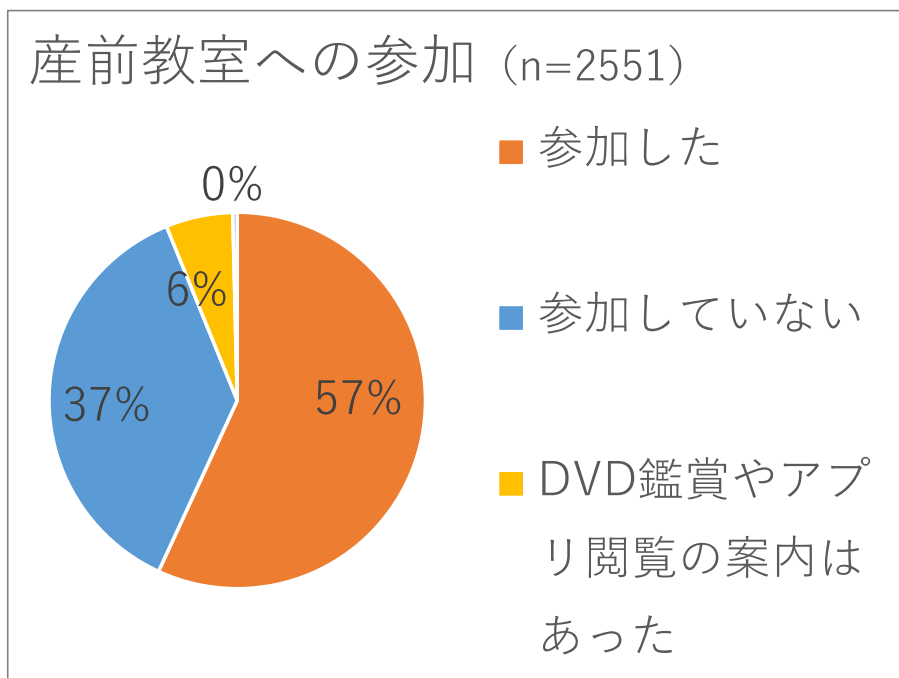
希望場所での出産



参考：人口動態調査による全数調査における回答者の出産場所の内訳は、病院54%、診療所45%、助産所0.53%、自宅0.13%である（2022年）。

産前教室の受講

産前教室で学んだこと（参加した人のみ 複数回答）



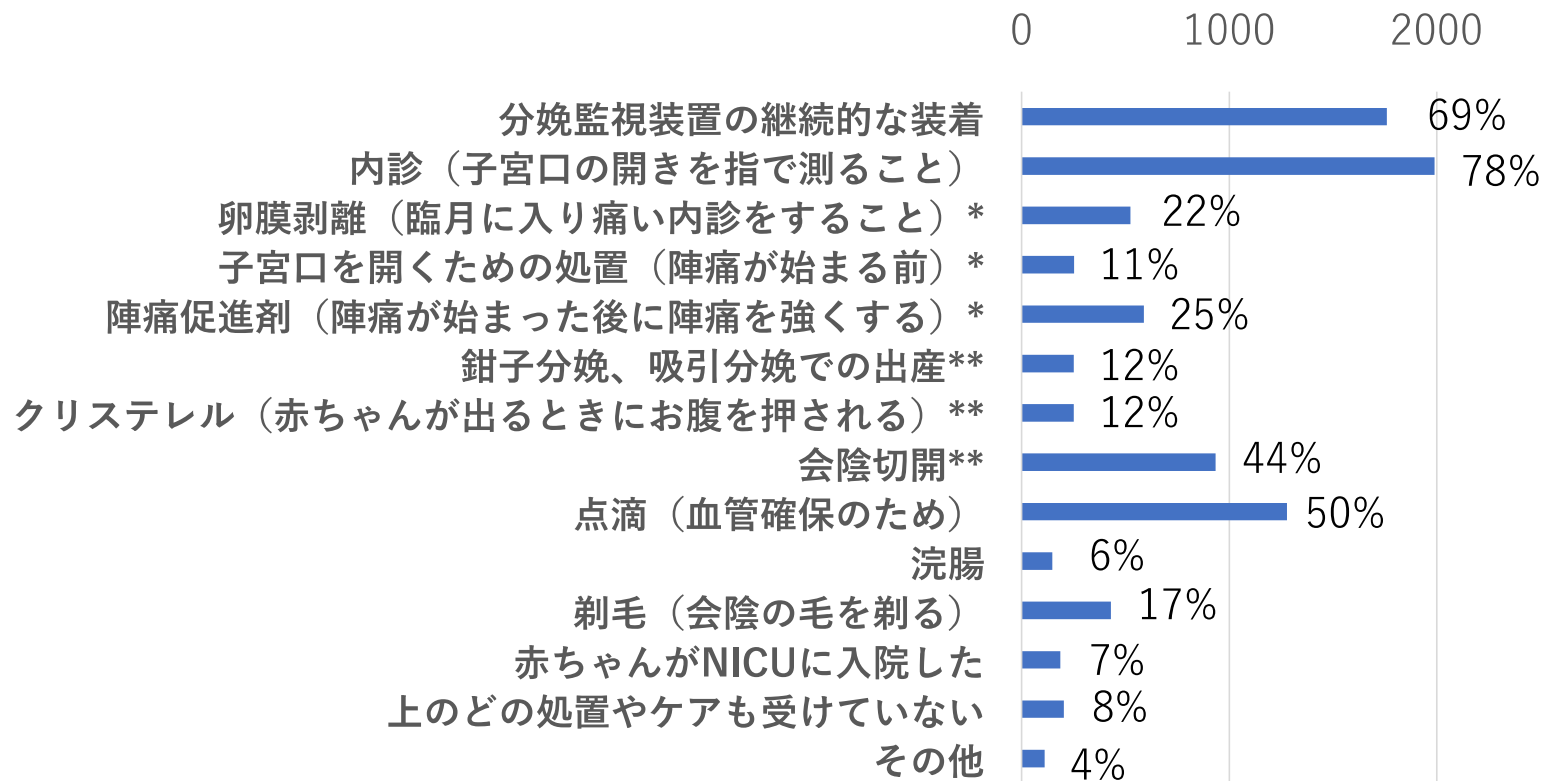
帝王切開についての
情報提供が
不足している可能性

出産中に受けた医療介入

*n=2355 (予定帝王切開を除く)

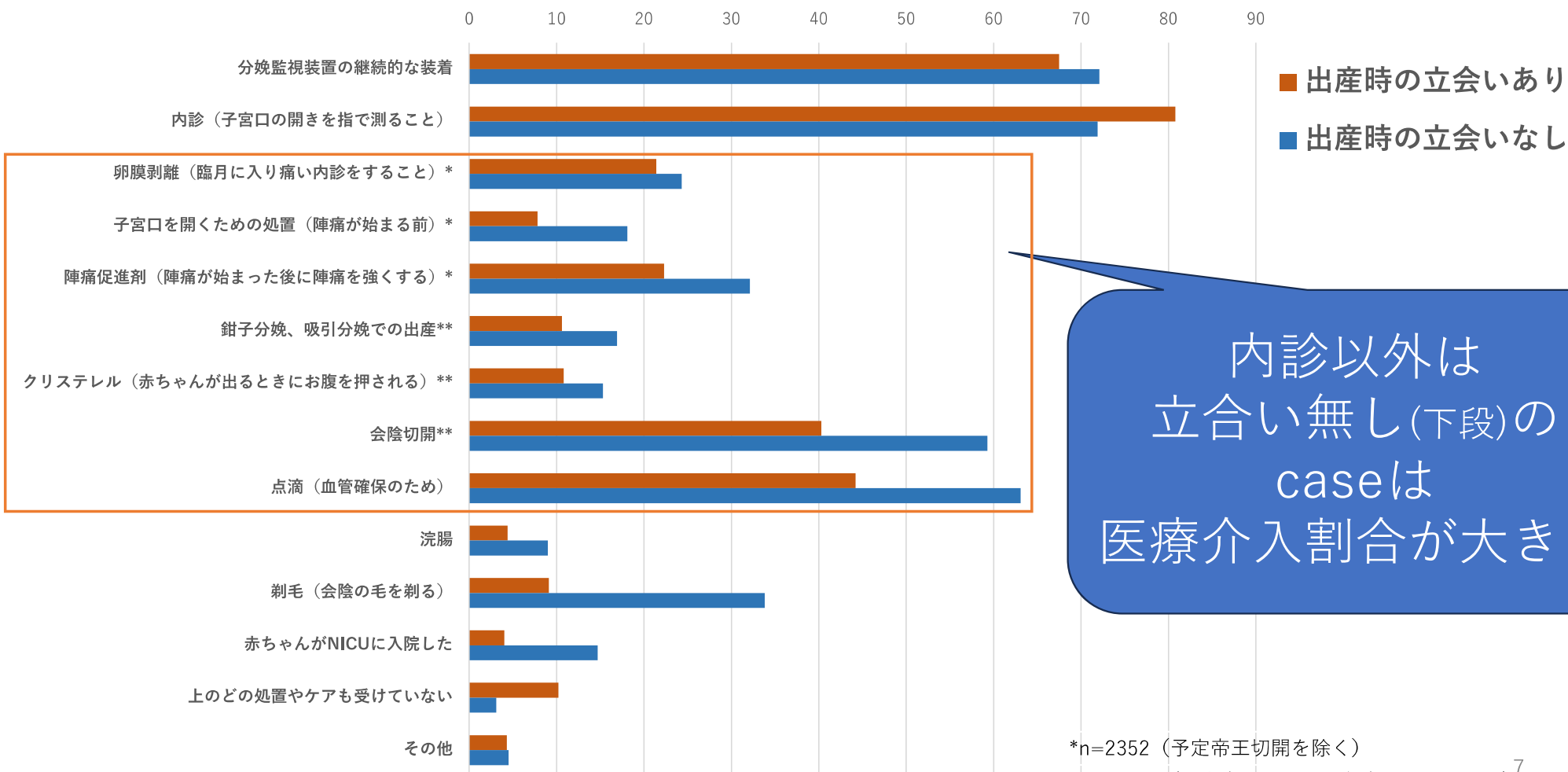
**n=2107 (予定帝王切開と緊急帝王切開を除く)

出産中に受けた医療介入 (複数回答) (n=2551)



出産中に受けた医療介入：出産時の立会い有無別

出産の時に受けた医療処置：出産時の立会い有無別（2547名）



内診以外は
立会い無し(下段)の
caseは
医療介入割合が大きい

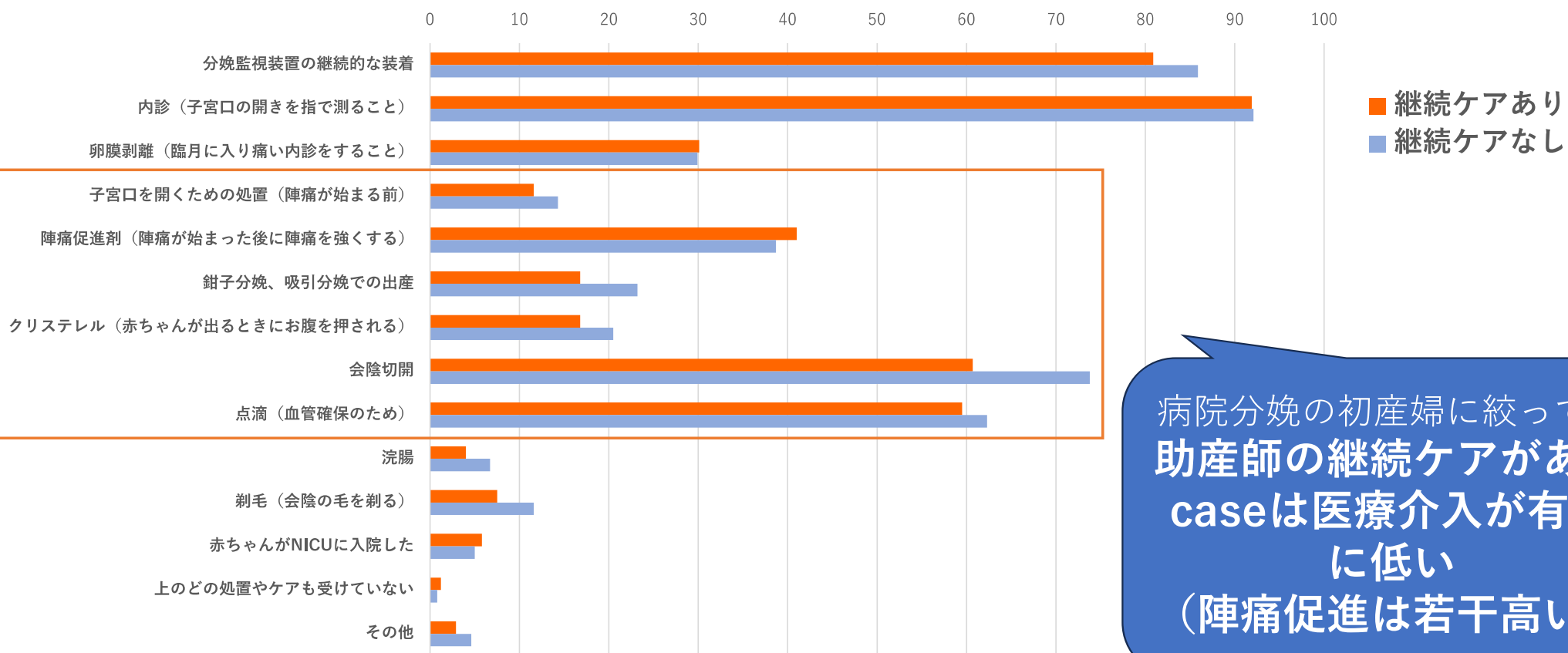
*n=2352（予定帝王切開を除く）

**n=2106（予定帝王切開と緊急帝王切開を除く）⁷

出産中に受けた医療介入：助産師の継続ケア有無別 医療施設出産のみ、経膣分娩のみ、初産婦のみ

出産の時に受けた医療処置：助産師の継続ケア有無別（1052名）

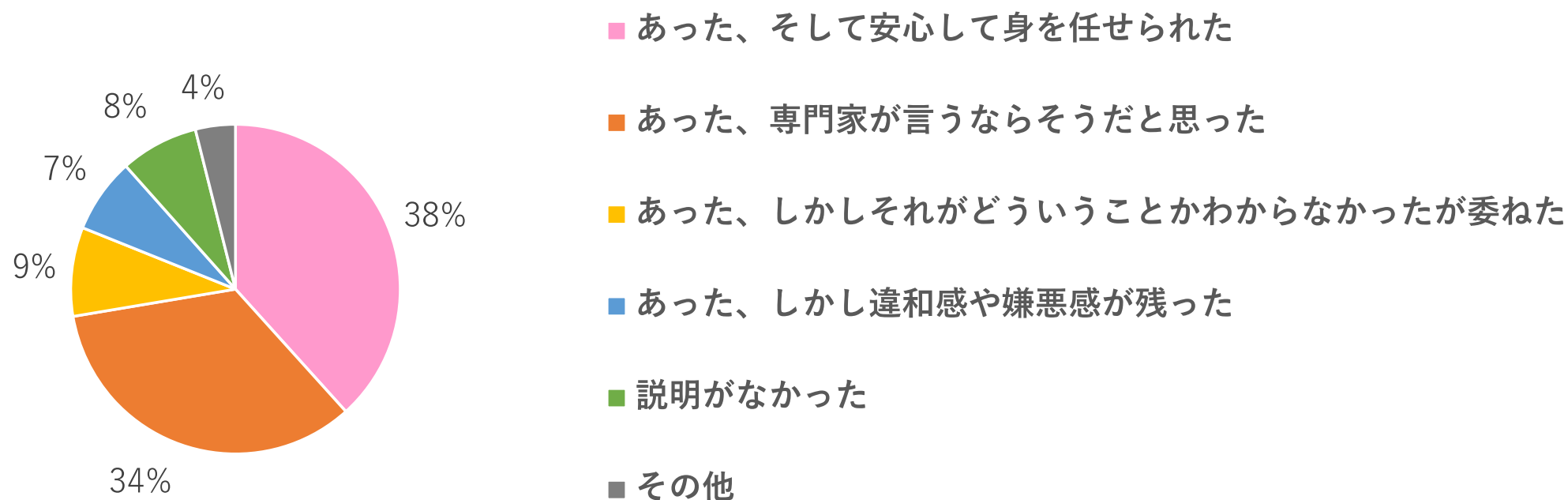
医療施設出産のみ、経膣分娩のみ、初産婦のみ



病院分娩の初産婦に絞っても
助産師の継続ケアがある
caseは医療介入が有意
に低い
(陣痛促進は若干高い)

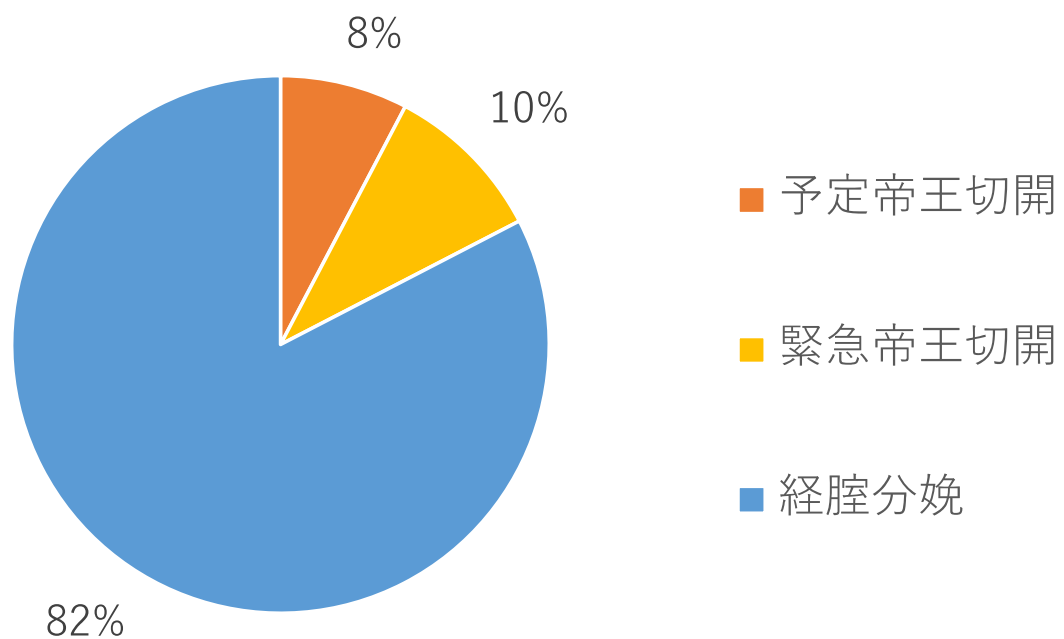
医療処置の事前説明（受けた場合）

医療処置の事前説明（n=2336） 医療処置を受けた人のみ



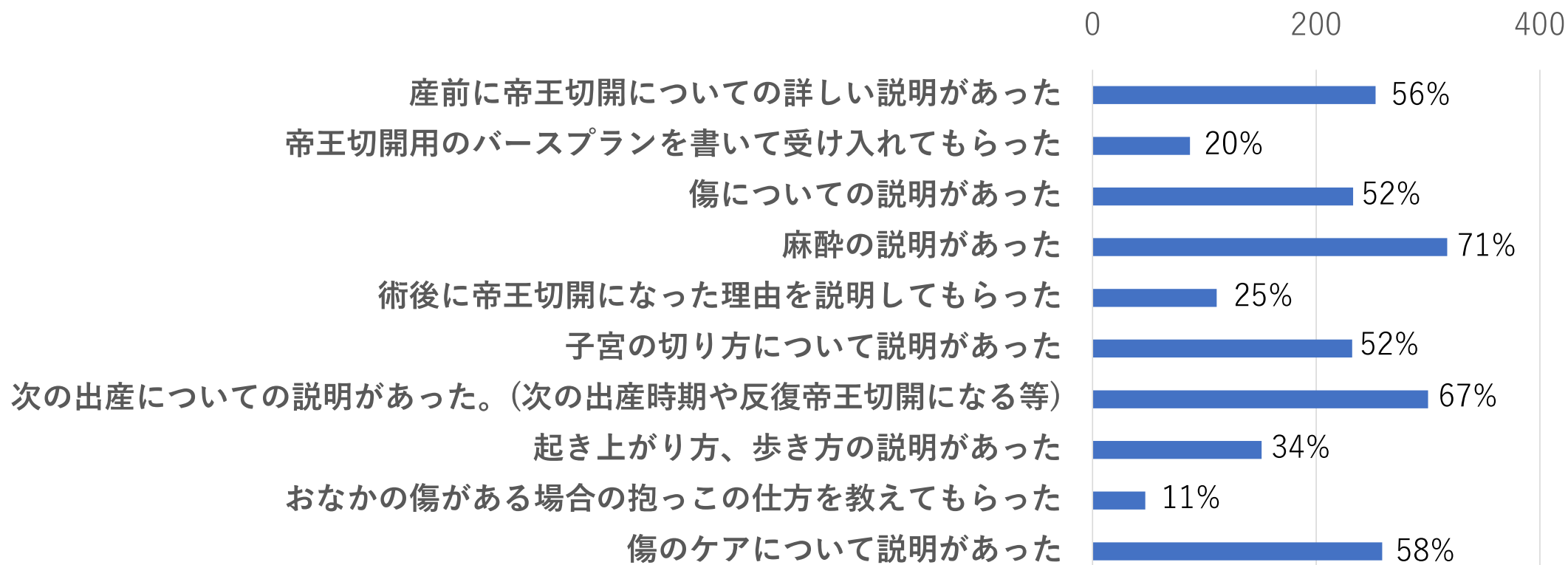
帝王切開の有無

帝王切開を受けたか (n=2550)



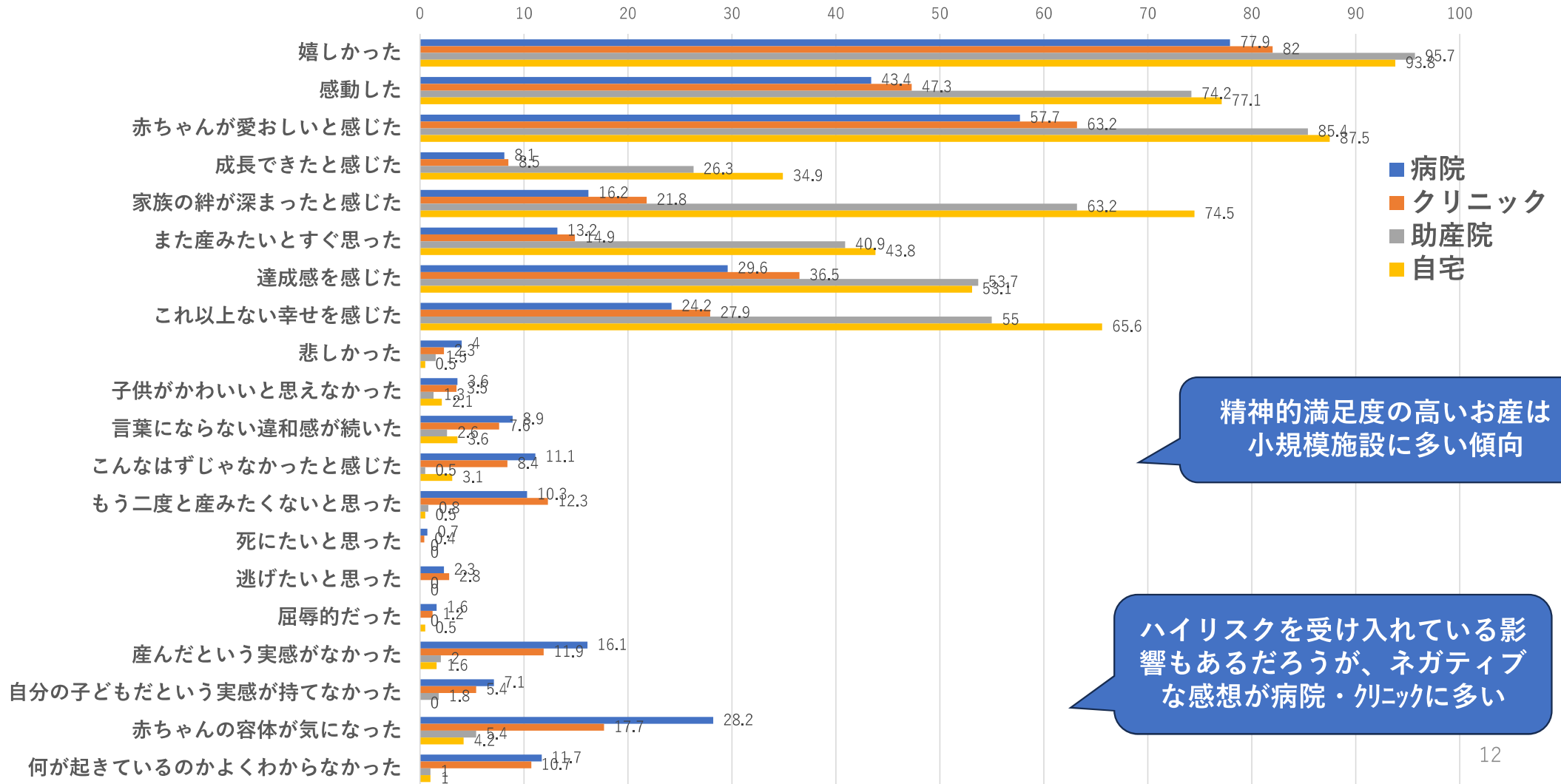
帝王切開の説明（帝王切開を受けた445名）

帝王切開の説明（複数回答）（n=445）



出産直後の気持ち：出産場所別

出産直後の気持ち（％） 出産場所別，2015年以降の2545名

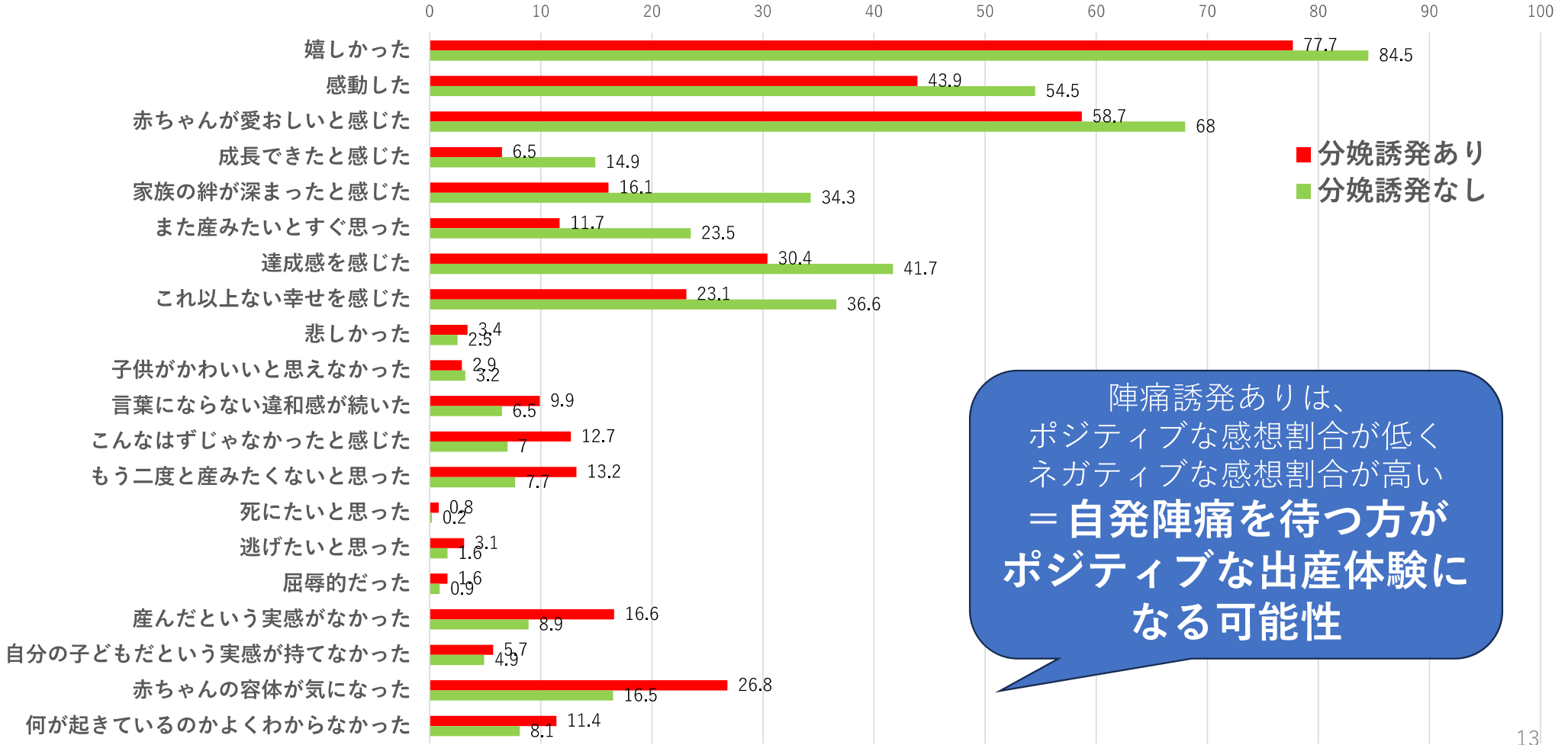


精神的満足度の高いお産は
小規模施設に多い傾向

ハイリスクを受け入れている影
響もあるだろうが、ネガティブ
な感想が病院・クリニックに多い

出産直後の気持ち：陣痛誘発有無別

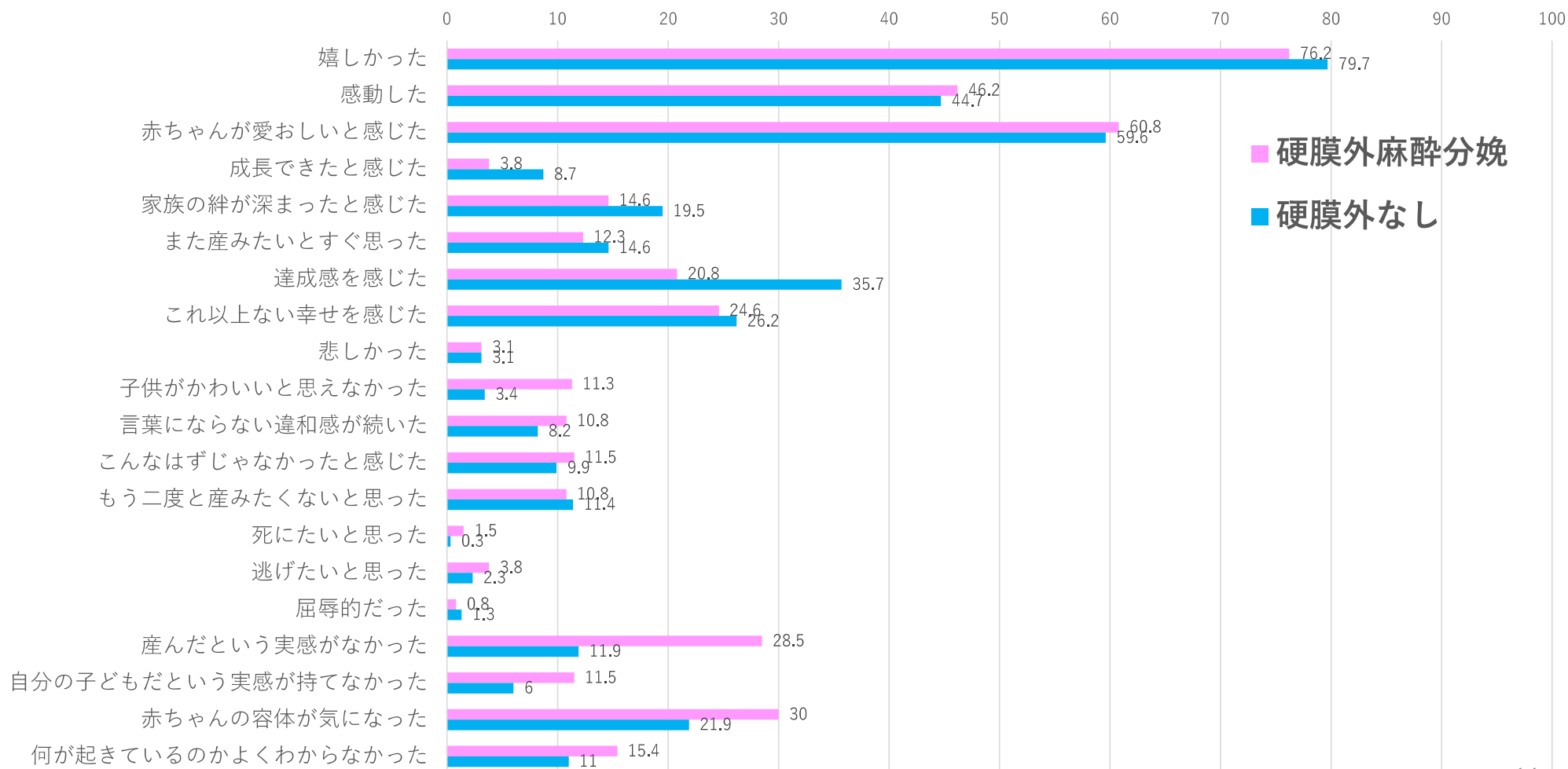
出産直後の気持ち（％）陣痛誘発有無別，
2015年以降、予定帝王切開を除く2353名



陣痛誘発ありは、
ポジティブな感想割合が低く
ネガティブな感想割合が高い
＝自発陣痛を待つ方が
ポジティブな出産体験に
なる可能性

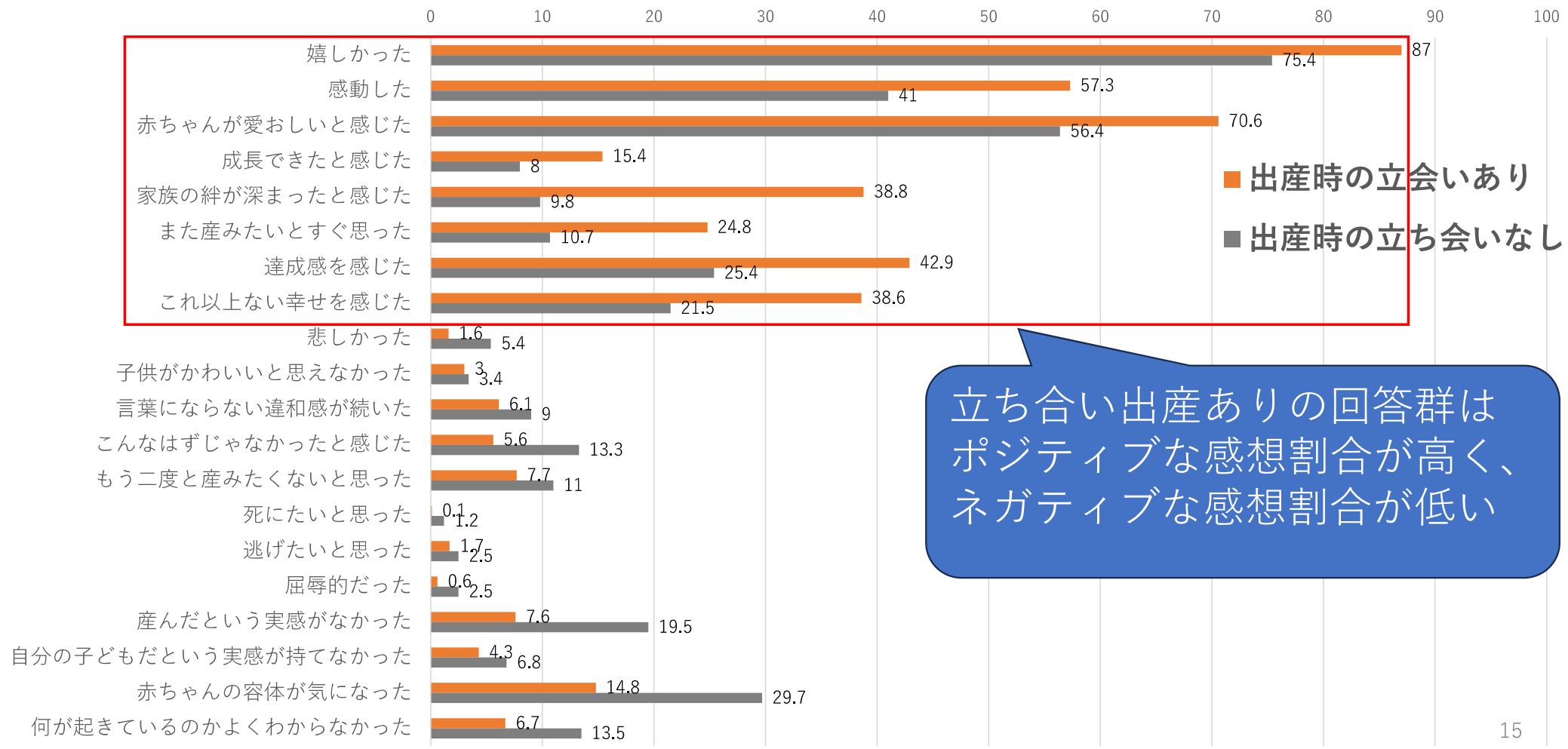
出産直後の気持ち：硬膜外麻酔分娩有無別、病院出産のみ

出産直後の気持ち（%）硬膜外麻酔分娩別（無痛分娩），
2015年以降、病院出産のみ、予定帝王切開を除く1758名



出産直後の気持ち：出産時の立会い有無別

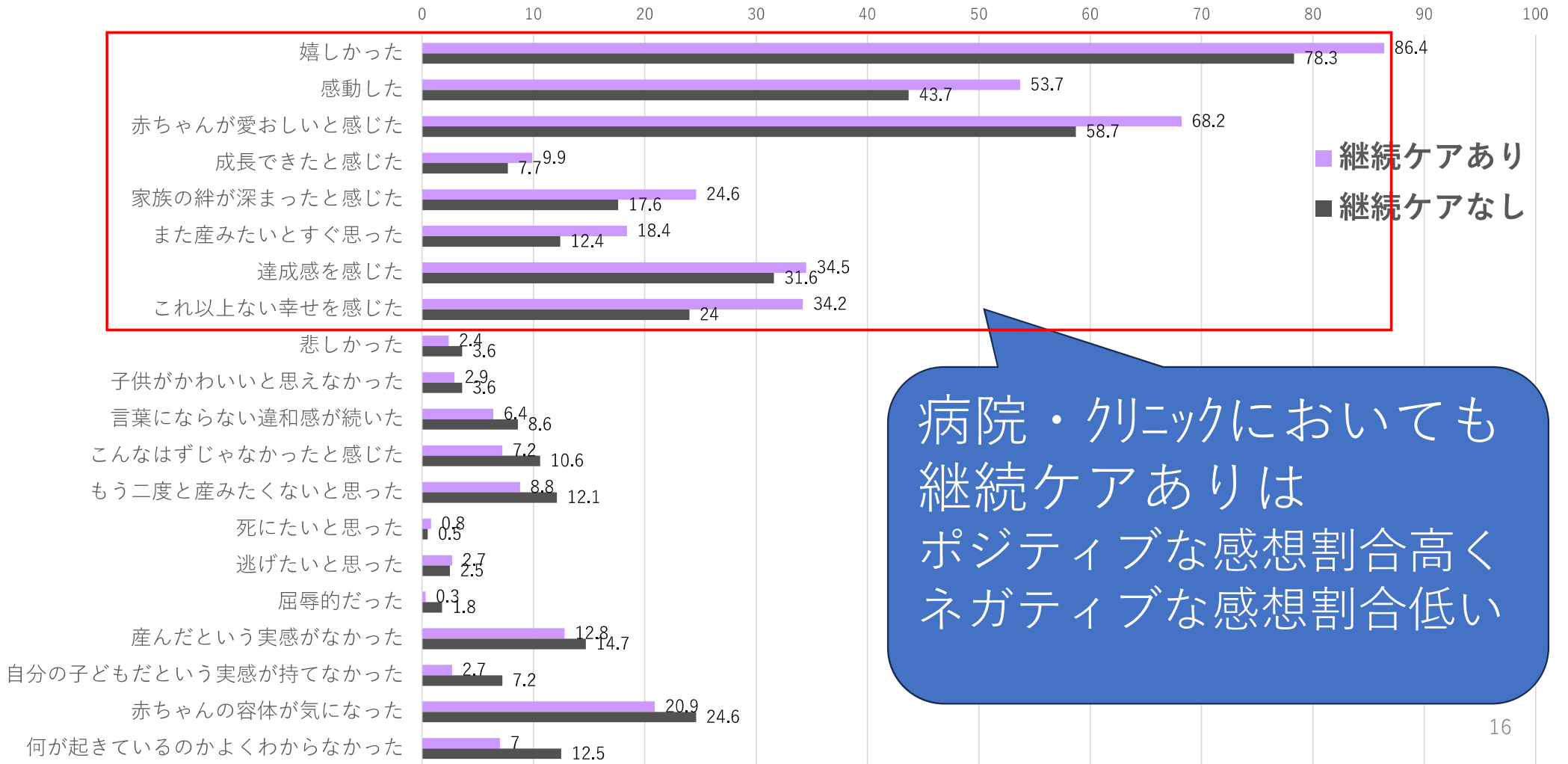
出産直後の気持ち（％） 出産時の立会い有無別,
2015年以降, 2547名



立ち会い出産ありの回答群は
ポジティブな感想割合が高く、
ネガティブな感想割合が低い

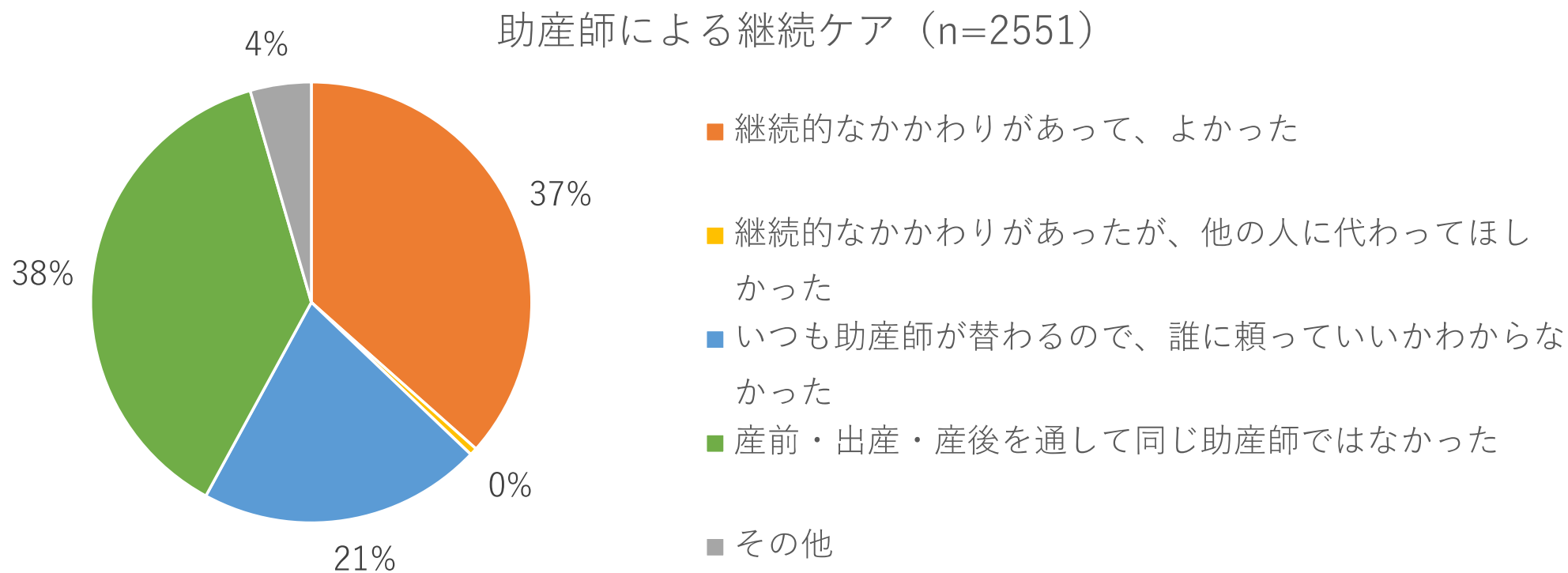
出産直後の気持ち：助産師による継続ケア有無別、医療施設出産のみ

出産直後の気持ち（％）助産師による継続ケア有無別、
2015年以降、医療施設出産のみ、1960名



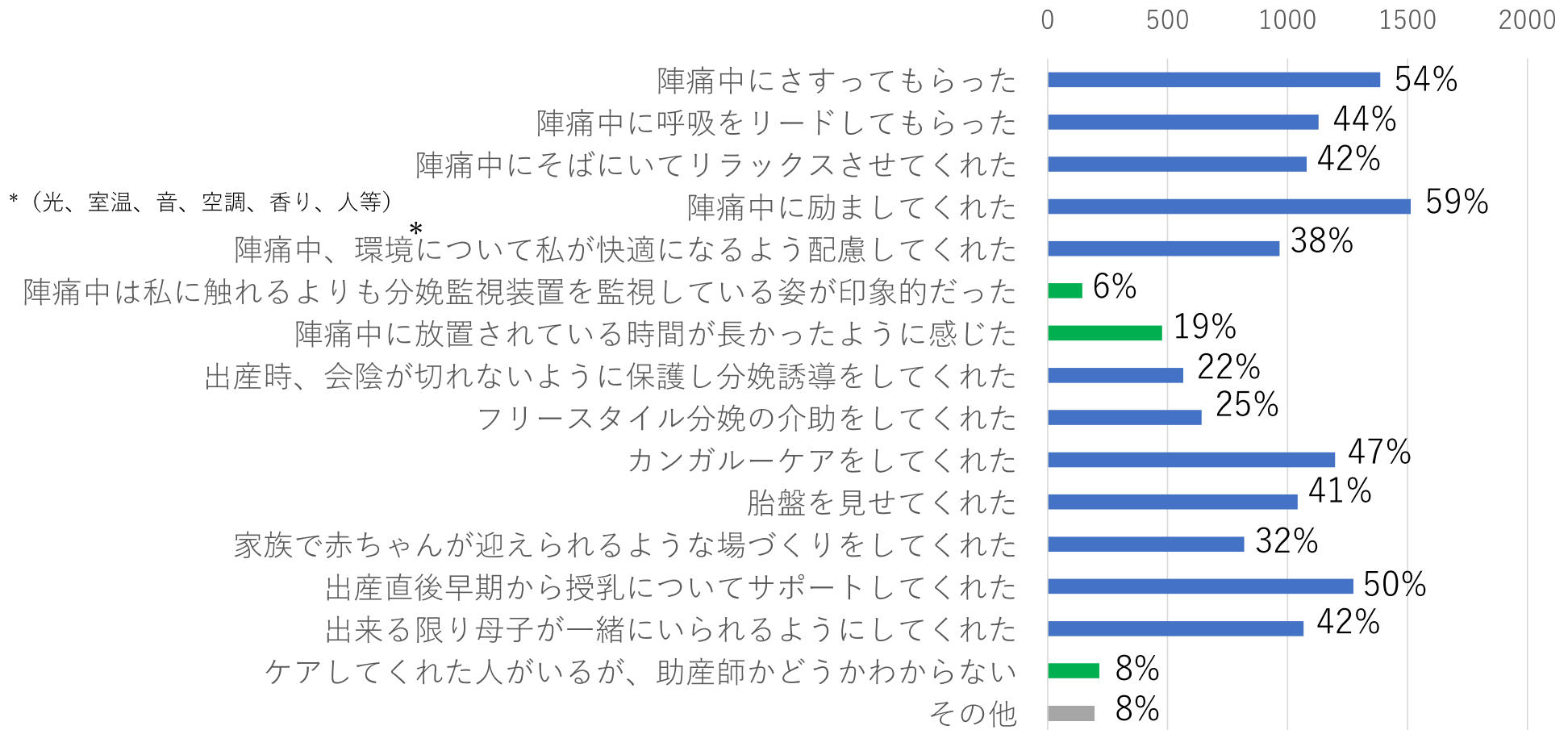
病院・クリニックにおいても
継続ケアありは
ポジティブな感想割合高く
ネガティブな感想割合低い

助産師による継続ケアについて



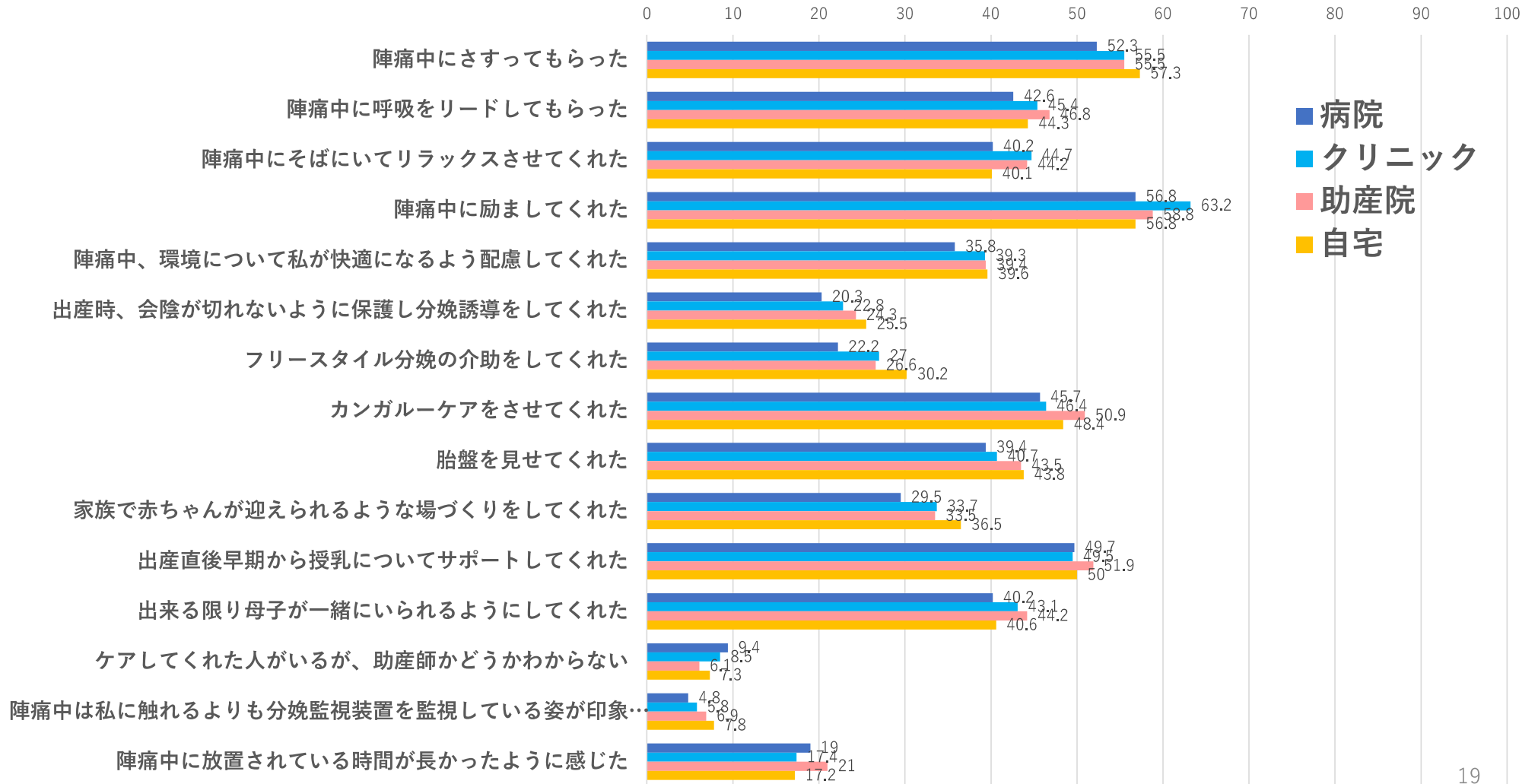
出産中の助産師のケア

出産中の助産師のケア（複数回答）（n=2551）

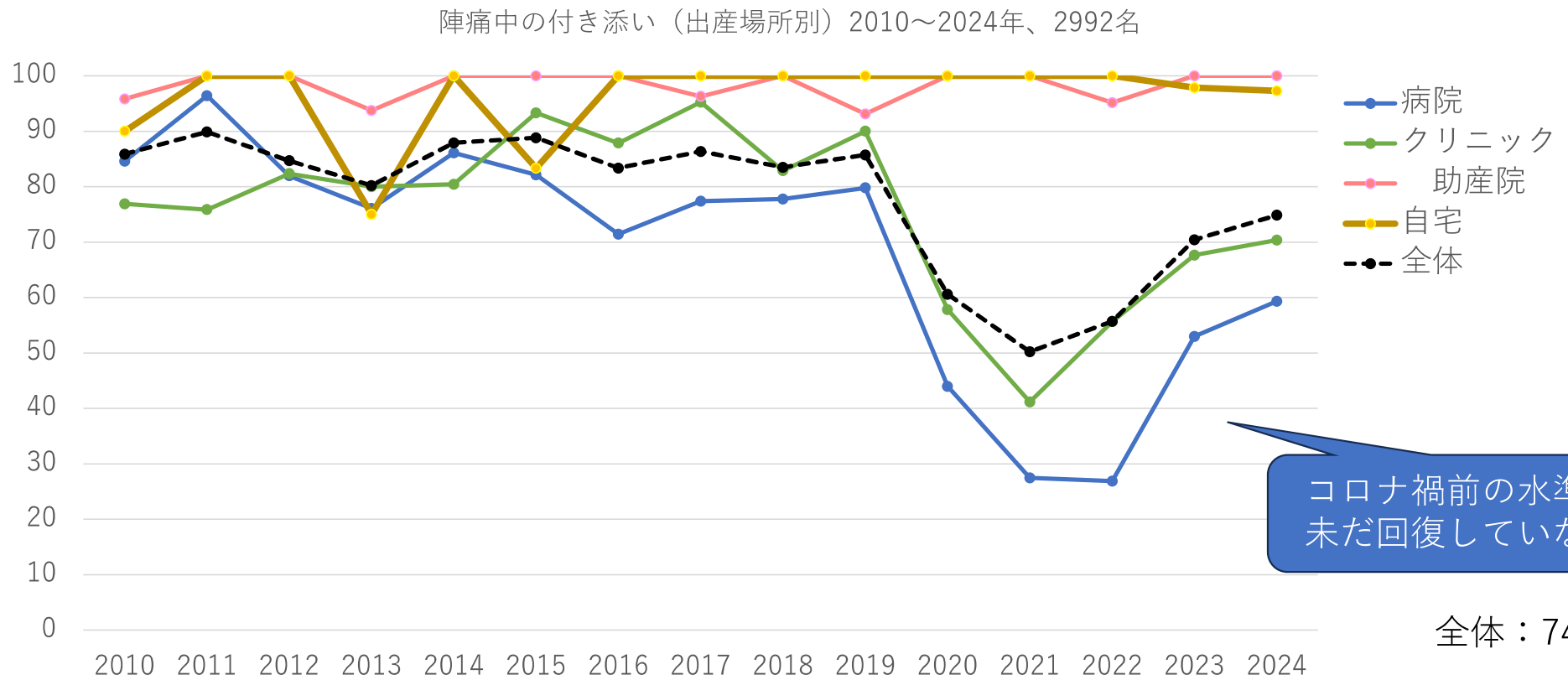


出産中の助産師のケア ： 出産場所別

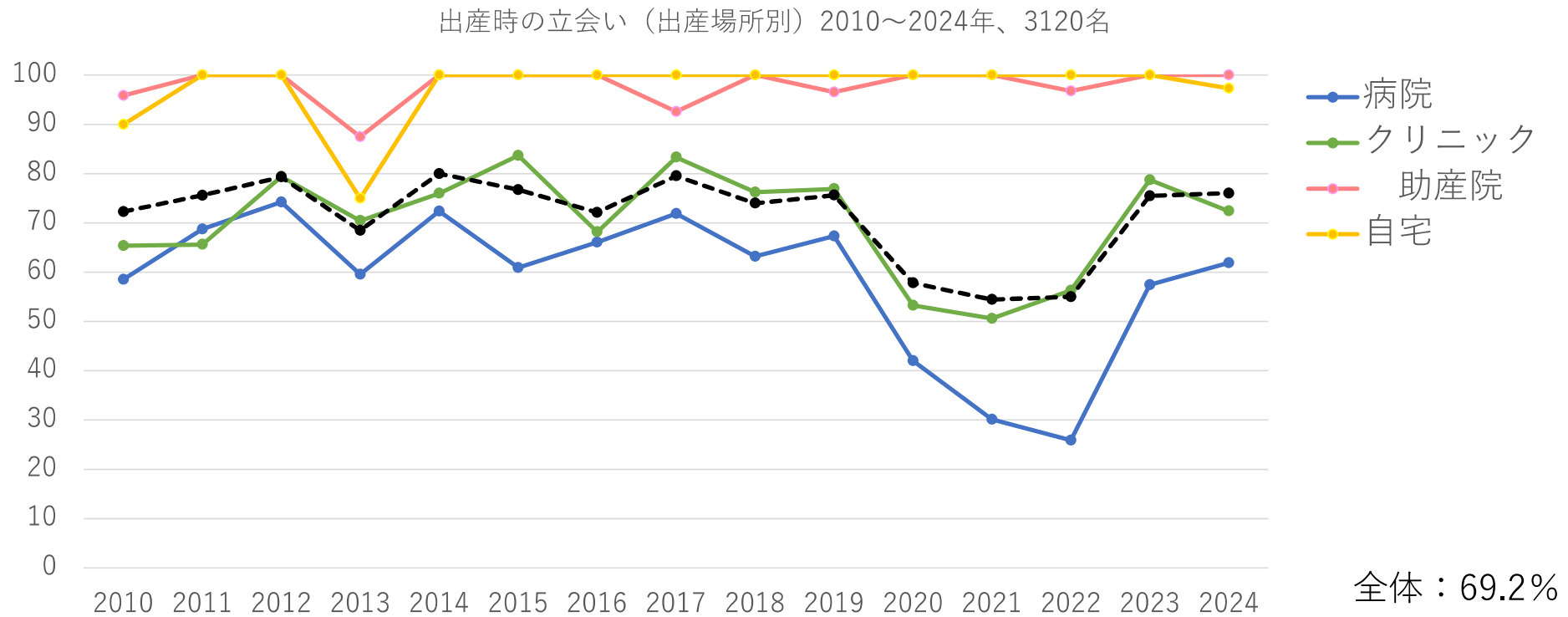
出産中の助産師のケア（%） 出産場所別,
2015年以降, 2545名



陣痛中の付き添い（出産場所別） 2010～2024年、2992名



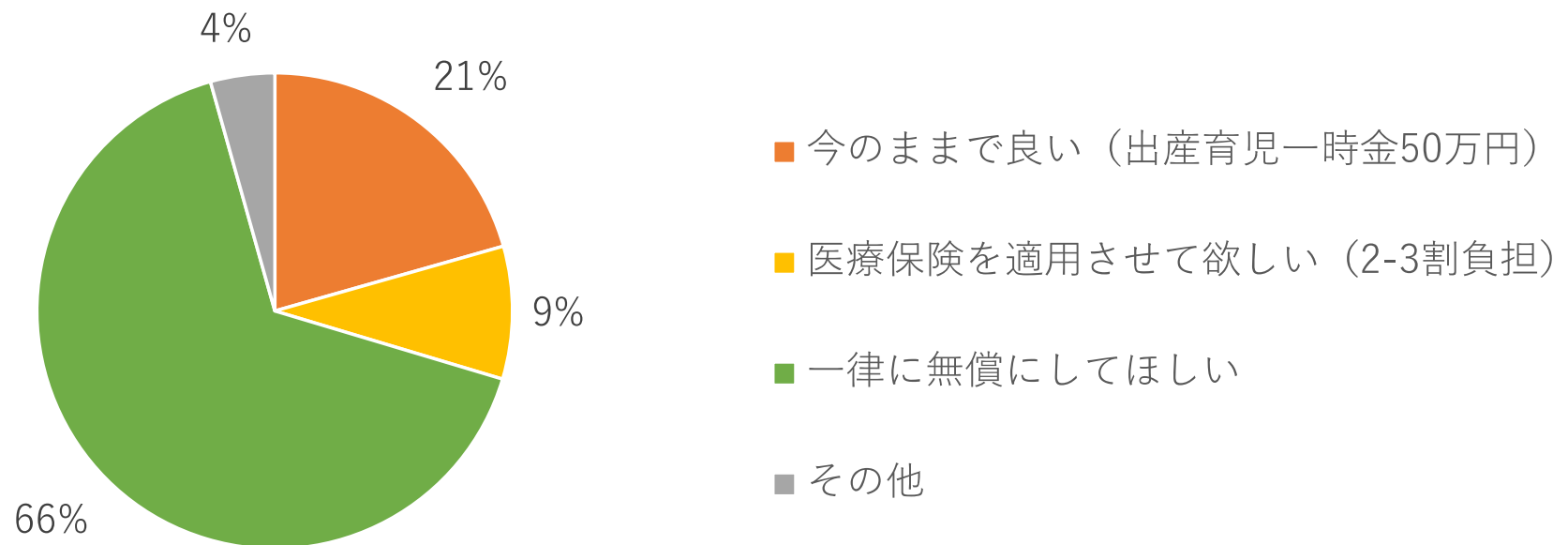
出産時の立会い（出産場所別） 2010～2024年、3120名



出産費用についての考え

2014年以前の出産年の方や、流産・死産・妊娠中・海外なども含めている（重複ケースのみ除外）

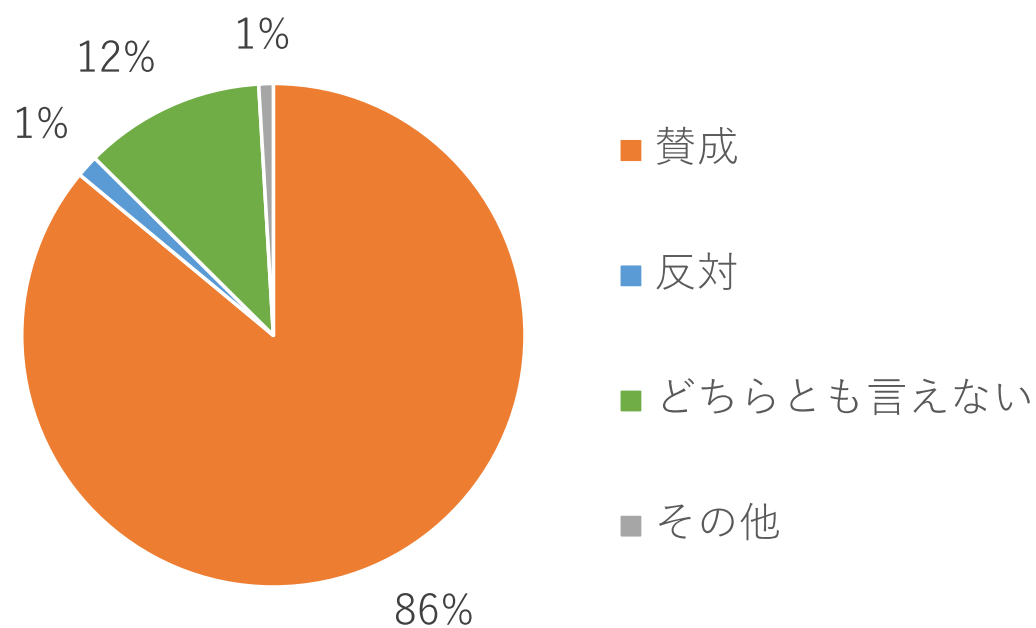
出産費用についての考え（n=3605）



無償化の提言への賛否

2014年以前の出産年の方や、流産・死産・妊娠中・海外なども含めている（重複ケースのみ除外）

無償化の提言への賛否（n=3605）



継続ケア・陣痛時寄り添い・立ち合い出産の重要性

- ・産前から同じ担当者による伴走型継続ケア
- ・陣痛時に傍にいてさする、声をかける等の寄り添い
- ・家族と一緒に赤ちゃんを迎えられる分娩環境

がポジティブな出産体験と関連する。

「産んでよかった」「また産みたい」「子どもが愛おしいと思う」
長い育児を幸せな気持ちでスタートを切るために重要

医療介入が減り、医療費抑制にもつながる

アンケート自由記述欄から

産む場所探しに関して

子宮筋腫があり病院で産むしか選択肢がない場合、フリースタイルで産める場所、 unnecessary 医療介入（破水した時点での抗生物質投与）をしない産院が全然なくて大変でした。

「自分に合う産院」ではなく、「最も近い産院」しか選択肢がない。

自宅近くの産婦人科は閉院が続いていて、実家の近くの自分が産まれた産婦人科も閉院...消去法で選んだ

住み慣れた土地ではなかったもので、情報がなくどう選んでいいかわからなかった。施設のゴージャスさやお料理ではなく（別に宿泊施設ではないし）どんなお産ができるか、その後どんな子育て環境があるか？を行政にもっと情報提供してほしい。そんなところなら安心して住めるし、産める。

アンケート自由記述欄から

妊婦健診に関して

自分のための妊婦健診というより、出産時のリスクを回避するため、医療者が把握するためという感じの健診で、往復2時間・待ち時間2時間かけて何をしに行っているのか分からなくなった。症状や病気のことを次々に言われた。もっと温かな雰囲気健診を受けたかった。お腹にも触れて欲しかった。

細かい数字やお腹の中の赤ちゃんのお顔が見られるけど、全部機械で、その出たものをただ伝えられる健診だった。そこに楽しいとか、安心するとか、信頼が生まれる会話はなかった。

「お腹は張っていますか？」とよく聞かれたが、初めての妊娠でどのような状態なのか分からなかった。お腹が硬くなるのが、赤ちゃんが動いて頭が当たっているのだと思っていた。その状態をこちらから医師に話して初めて、これが張っているのだと分かったが、その時助産師に「お腹が張っていると言ってくださいよ！」と怒られたのは腑に落ちない。明らかに説明不足だと思う。

アンケート自由記述欄から

助産師の寄り添いで 助けられたこと

助産院での健診でいつも赤ちゃんに話しかけてもらえて、私も子どもも大切にしてもらえているという気持ちになれた。お産の次の日にお産担当してくれた助産師さんがお産がどうだったか話す機会をくれた。そして自分のお産を褒めてくれて嬉しかった。産後、おっぱいがうまく軌道に乗らず訪問もされている助産院でお世話になっていたため、おっぱいマッサージに来てもらった時、子どもの身体測定や抱きかた、あやしかた、遊び方など時間をかけて教えてもらえて相談できる人がいることに救われました。

助産師さんが、陣痛中の胎児の異変に気づいてくれ、医師に伝えてくれて最終的に帝王切開になったけれども、ずっと手術室で手を握って寄り添ってくれて本当に嬉しかったです。その方に救われました。

アンケート自由記述欄から

つらかったこと・困ったこと

お腹を触ってほしい。異常かどうかの診断だけでなく、数値化・可視化できない不安や些細な気持ちなども吐露できる、時間と関係性づくりをしてほしい。

初産で不安な事やわからない事が数えきれないほどあったが、忙しそうな医師や助産師に落ち着いて質問する事が難しいと感じた。助産師や経産婦さんと話す機会などがあれば、とても精神的に助かると思った。

陣痛の間隔が短く強くものすごく痛い中、何時間もひとりでベッドに寝かされて横も向けないし、声を出してもかわらない！と一喝された。産後もおっぱいのケアなど対応も言葉も丁寧ではなく、次の妊娠出産があったとしてもこの産院で産むのは絶対にやめる！と心得ました。

陣痛中の放置、産後の母乳の助けもなかったので、もう二度とクリニックで産まないと決めました。

アンケート自由記述欄から

「こう産みたい」を
くみ取ってもらえた

フリースタイル出産を初めて経験したが、これまでの出産と比べ物にならないほど、自分の気持ちを尊重してもらったと感じる。頭の片隅にあった、「分娩台、恥ずかしいから嫌だな」や、出産直後のカンガルーケアが短すぎることなど不満は諦めて当然のことだと思っていたが、諦めずに主張していいことなんだ。可能なことだったんだな。この小さな願いが聞き入れられることが、当事者にとって何にも変え難い幸せか計り知れないと思う。

出来る限り私の要望に答えてくれた。帝王切開でもまたすぐに赤ちゃんと会えたのが嬉しかった！母乳育児がしたかったので、出産後に助産師さんが母乳が軌道に乗るようにとたくさん協力してくれた。話も聞いてくれて、ここの病院を選んで良かったと心から思えた。助産師さんの優しさが心に染みてそれは忘れない。安心して過ごすことが出来たのが本当に、最高だった！助産師さんの優しさを他の人にも伝えたく、困っている方がいたら話をたくさん聞こうと思った！

アンケート自由記述欄から

助産院での経験

陣痛中、ずっとそばにいて、さすってくれたけど、必要以上に何かを話したりすることはなかったので、それが逆に、自分と赤ちゃんに集中することができて、自分で産んだ！という実感に繋がった気がします。私の体の声を聴きながら、なかなか出てこない胎盤もゆっくり待ちながら、丁寧に出してくれたおかげで、今回は出血が少なく、産後の体もすごく楽でした。産後の入院中に、助産院の先生とお産の振り返りをして、私自身の気持ちや、陣痛中に先生が感じていたことを聞いて、その時間がとても幸せでした！

信頼できる助産師さんと一緒に出産できることが、こんなに幸せとは知らず、全お母さんに助産院で出産することを勧めたいと思った。陣痛中、娘の遊び相手をしてくれたり、大泣きする娘を抱っこしてなだめてくれたり、家族に対してもサポートをしてくれた。また、私の要望を最優先してくれて、私が心地良い状態を常に作ろうとしてくれた。

アンケート自由記述欄から

出産費用無償化について

産んだ後のケアなどに地域差などが出そうなので、その辺りを公平にしてもらいたい。無償化されて、受けられるケアなどが良くなる地域、悪くなる地域があっては困る。

出産の無償化も大切だと思うが、産後ケアも、もっと充実させてほしい。できれば子どもが1歳になるくらいまでは、産んだ助産院や関わった産婦人科で、母子共に、金銭的な負担なくサポートを受けたい。

無償化については基本的に賛成。但し、全ての妊産婦が受けるべき出産医療（妊婦検診～自然分娩）については一律無償化とし、例えば帝王切開、無痛分娩（麻酔）、輸血、個室等、個々に必要となるものは希望する部分については有償として線引きしたほうが良いと思う。

ずっと満足のできるケアを提供してくれる助産師と、離れていて相手都合で観察にくる助産師では報酬が違って当たり前だと思う。どうやってそれを算出するかと言われると難しいが、満足度の高いお産には助産師さんへそれなりの報酬をつけて欲しい。

アンケート自由記述欄から

自由記述全文は note 「お産を女性の手に取りもどす」 に順次掲載しています。

- ・ 妊婦健診について
- ・ 産む場所探しについて
- ・ 帝王切開について
- ・ 誘発分娩について
- ・ 陣痛促進剤について
- ・ 硬膜外麻酔分娩について
- ・ 受けた妊娠出産ケアで感じたこと、学んだこと
- ・ 出産保険適用化と無償化について etc

<https://note.com/osanwomamorou>



提言について

- 提言① 妊娠・出産に関わる医療費を実質無償化とする
- 提言② 正常出産の定義と保険適用範囲の明確化
- 提言③ 保険適用と出産育児一時金の両立および誰ひとりとり残さないための制度作り
- 提言④ WHO 推奨項目※に沿った産科ケア
- 提言⑤ 助産師による継続的なケア
- 提言⑥ 帝王切開と麻酔分娩のガイドラインの整備
- 提言⑦ 女性と赤ちゃんが受けるケアについて十分な情報を得て主体的に選択するための出産準備教育の強化
- 提言⑧ 信頼関係を築くためのコミュニケーションの構築
- 提言⑨ 出産場所の確保（嘱託医療機関と嘱託医制度の改善）



※「WHO推奨 ポジティブな出産体験のための分娩期ケア」<https://iris.who.int/bitstream/handle/10665/272447/WHO-RHR-18.12-jpn.pdf>

※※アンケート全期間の集計、2024年9月27日に厚生労働省に提出した提言書もサイトに掲示しています。

<https://sanka-teigen2024.hp.peraichi.com/>

検討会へのお願い

- 保険適用を検討する前に、妊産婦と子にとってよりよい出産とは何か検討し、それを実現するための仕組みや制度を考えて下さい。
- 出産費用を健康保険適用とする場合にも、制度外となる人・はざまに陥る人が生じない、シンプルな制度にしてください。
完全無償化の方が、未受診・無介助を減らし、事務作業を減らすでしょう。
日本にもかつて助産が公費でおこなわれる仕組みがありました。海外もそうです。
- 不要な医療介入がパッケージ化されないようにしてください。
- 助産師の継続ケアのニーズと効果を評価して下さい。
- 妊産婦が情報を得て主体的に出産場所や出産方法を選択できる環境を整えて下さい。
- 女性の様々な経験や様々な声を聴いてください。妊産婦本人を検討の場に入れて下さい。